



はくろ（白鷺）の散歩Ⅴ

令和5年10月12日
～校長室の窓から～ 令和5年度 No.10
神奈川県立平塚中等教育学校
校長 松本 靖史

【東京大学キャンパスツアーを実施しました】

9月17日（日）の10時から13時まで、東京都文京区の東京大学本郷キャンパスにてキャンパスツアーを実施しました。



事前に4、5年次生に参加希望を募ったところ、54名もの応募があったため、当日は6つのグループに分かれ、それぞれのグループに本校2期から8期までの東大生6名（現役または卒業生）がボランティアでつき、案内をしてくれました。

まだまだ夏の暑さが残る1日でしたが、都会の只中にある緑と静けさに満ちた広いキャンパスで、図書館や各校舎棟、三四郎池や安田講堂やグラウンド、学食などを、時間をかけて巡りました。

先輩方からは中等時代の思い出をはじめ、東大での思い出や魅力、今何をすべきかなど、じっくりお話を聞くことができました。



大学の様子は、最近ではホームページなどで知ることができますが、先輩方から聞く体験談やメッセージは直接その場で受け取るからこそ、より強く胸に残るものとなります。生徒たちにはぜひこのかけがえのない体験を大切にしてもらいたいと思います。（澤村副校長）

【前期生芸術鑑賞会】

9月21日（木）の午後、前期生はひらしん平塚文化芸術ホールをお借りして芸術鑑賞会を実施しました。ここ数年は、クラシック音楽、演劇、狂言の順で鑑賞していますが、今年は阿部金三郎・銀三郎さんを中心に結成された津軽三味線、民謡を中心とした日本民俗音楽芸能集団「あべや」による演奏です。オープニングは、生徒3人も加わって笛と太鼓による「狐の嫁入り」でした。オープニングに続く津軽三味線のパフォーマンスの

中では、生徒からのリクエスト曲をその場で演奏するという場面もありました。

また、民謡のコーナーでは、たくさんの生徒が舞台上に上がり、「あべや」のメンバーとともにソーラン節を踊るなど、生徒が参加する場面が多くあり、生徒は、とても楽しそうにしていました。伝統文化は形が変わらない古臭いものではなく、時代とともに変化することも学べた芸術鑑賞会でした。



【演劇部が市民演劇フェスティバルに参加】

9月23日（土）、24日（日）に開催された第22回湘南ひらつか市民演劇フェスティバルに本校演劇部が参加しました。

本校の演劇部は9月23日（土）に公演を行いました。演目は高校の演劇部でも取り扱われることが多い、畑澤聖悟作「修学旅行」。私は2年前の翠星祭文化部門で、演劇部の同じ演目を観たのですが、今年はまた新たに潤色され、前回よりもテンポのよい、引き締まった印象を受けました。

ストーリーは修学旅行で訪れた沖縄のホテルの一室における女子グループの出来事を通して、今も世界の各地で続いている「戦争」への思いを巡らすもので、観客のひとりとして、テンポよくそしてユーモラスに交わされる会話に声をあげて笑ったり、ふと立ち止まって、様々なことを考えさせられたりしました。

同じ内容の演劇を2回観たせいか、演じていた生徒の一人ひとりが真剣に役と向き合い、舞台上の動きの細部にまで意識して、いきいきとした人物造形に取り組もうとしている姿が感じられました。演者としての成長が感じられるひとときでもありました。（澤村副校長）